

学部	人文学部日本文化学科（1部・2部）
教科・科目名	小論文
試験問題	著作権の関係のため公開していません。 ※過去問につきましては、入試課までお問い合わせください。

学部	人文学部日本文化学科（1部・2部）
教科・科目名	小論文
出題の意図 全体	AI時代における人間のあり方を問う文章を課題文とした。近年の生成AIの進化は著しい。生成AIは、すでに一定の品質の、イラストや動画などのコンテンツを作成することができるし、さらにその品質が向上することは間違いないだろう。ならば、今までコンテンツを制作してきた人間は不要になるのだろうか。著者はそうではない、と考えている。それはなぜか。「人間はじつは、コンテンツの中身と付加情報をともに消費している」。これは言い換えれば、人間は、誰が作ったかという「作家性」に価値を見出しているということである。著者はX、YouTube、TikTokなどのSNSを例に挙げながら、「現代人は「ひと」にかつてなく関心をもっている」と指摘している。それゆえ、著者は、AI時代において人間は不要になるどころか、逆にその重要性を増していると主張するのである。AIが人間を不要なものとしてしまうという短絡的な意見を耳にすることが多い現代において、これは傾聴に値する意見であると思う。AI時代のただ中を生きる受験生にこそ、現在、人間の置かれた状況について理解を深めてもらいたいとの思いから、本文を課題文とした。
出題意図 1	接続詞の選択問題である。これによって、文章間の関係を論理的に読み解く力を見た。
出題意図 2	AI時代における人間のあり方について、課題文を踏まえた上で自らの見解を論述してもらった。AI時代において、コンテンツ制作の場面で人間は不要になるどころか、逆にその重要性は増すというのが著者の主張であった。この点を解答者なりに理解しながら、解答者なりの見解を記述できるかを問うた。

学部	人文学部英米文化学科（1部・2部）
教科・科目名	小論文
試験問題	著作権の関係のため公開していません。 ※過去問につきましては、入試課までお問い合わせください。

学部	人文学部英米文化学科（1部・2部）
教科・科目名	小論文
参考	デラルド・ウィン・スー『日常生活に埋め込まれたマイクロアグレッション』マイクロアグレッション研究会訳、明石書店 The Guardian, August 25, 2020
出題の意図 全体	<p>人文学部英米文化学科では、英語および欧米文化に関する専門的な知識と教養を備えた主体的な学びの姿勢を重視しています。本試験では、問題を通じて読解力、論理的思考力、表現力を問うとともに、現代社会の多様性に対する関心や理解を評価し、論理的に考え自分の意見を的確に伝える力を求めています。</p> <p>小論文問題では、日本語および英語の文章を正確に読解する力、論理的かつ説得力のある文章を作成する力、さらに現代社会の問題に関心を持つ姿勢を評価することを目的としました。具体的には、日本語と英語の課題文の内容を理解して解答する問題1と、現代社会の問題に関する課題文を踏まえた上で自分の意見を述べる問題2を出題しました。どちらの問題も、主題となるマイクロアグレッションについての理解を深めた上で取り組む必要があります。読解力と思考力を問うことで、受験者の総合的な理解力や論理的な表現力を評価しました。</p>
出題意図 1	<p>現代社会において、多様な価値観を持つ人々とコミュニケーションを行う上で、無意識の偏見を意識する必要性が高まっています。本試験では、マイクロアグレッションの概念と具体例を紹介する日本語の文章、および、より具体的で身近に感じられるマイクロアグレッションの例を示した英語の文章を課題文として提示しました。問題1では、文章1と文章2に書かれている事例がどのようにマイクロアグレッションに該当するのかを問いました。</p>
出題意図 2	<p>マイクロアグレッションの特徴を十分に理解した上で、日常生活における実例について考え、対策を説明できるかを問いました。</p>

北海学園大学工学部社会環境工学科
令和7年度 学校推薦型選抜(公募制) 小論文試験問題

注意：別紙の解答用紙（3枚）に、それぞれ受験番号と氏名を記入し解答すること。提出するのは解答用紙（3枚）のみである。

問題 以下の文章を読み、設問に答えよ。

AI（人工知能）やデータサイエンスは、市民の生活を支える社会環境工学の分野でも活用されている。例えば、道路の混雑を予測するAIを利用すれば、どの時間帯にどの道路が混むかを高精度で事前に行うことができる。この情報をもとに目的地までの移動時間を精度よく予測する、移動の効率化を促して温室効果ガスの排出量を減らすといった効果が期待されている。また、橋梁などに取り付けられたセンサーから得られるデータ（教師データ）を学習させることで、維持管理の省力化や事故の未然防止に役立つAIを開発することができる。洪水のシミュレーションでは、過去の降雨データや地形情報をAIが分析し、洪水が発生する可能性の高い場所や時期を予測する技術が使われている。これにより、効果的な避難計画の策定や被害の軽減が可能になる。これらの技術は、これまで人間が経験や勘に頼っていた部分を補い、より合理的な判断を下す助けになる。

設問1 上の文章で述べられている例以外に、AIやデータサイエンスがまちづくりや防災に活かされていると考えられる事例を200字程度で述べなさい。

設問2 まちづくりや防災に関わることで、北海道のような積雪寒冷地に特有の危険性を1つ指摘した上で、その危険性の低減につながるAIを開発するプランを600字程度で述べなさい。解答には以下の2つの要素が含まれていなければならない。

- ・AI開発によって改善が期待される「これまで人間が経験や勘に頼っていた部分」とは何か
- ・AIに学習させる教師データをどのように取得するか

学部	工学部社会環境工学科
教科・科目名	小論文
出題の意図 全体	<p>この問題は、環境情報コースへの出願者が、社会環境工学分野におけるAIやデータサイエンスの活用例を理解し、文章として表現する力を測ることを目的としています。設問では、受験生がAIの活用事例を自ら考え、積雪寒冷地の特有の問題に対して合理的な解決策を提案できるかが問われています。</p> <p>また、環境情報コースのアドミッション・ポリシーに沿い、市民の安全を支える社会や都市の仕組みに関心を持ちつつ、情報技術を活用して社会貢献を目指す姿勢が確立されているのかを確認することも意図しています。そのため、技術の理解のみでなく、実社会への応用を意識した論理的思考力も評価の対象となります。</p>
出題意図 1	<p>設問1では、与えられた文章の内容を理解した上で、AIやデータサイエンスがまちづくりや防災の分野でどのように活用されているかについて、受験生自身が考え具体的な事例を述べることを求めます。この設問では、情報技術の活用という視点を持ちつつ、日頃から社会環境工学の分野に興味・関心を持って高校での学びに取り組むことができているのかが問われます。</p>
出題意図 2	<p>設問2では、北海道のような積雪寒冷地特有の危険性を一つ指摘し、それを低減するためのAIの活用方法を考えることが求められます。AIによって改善が期待される「これまで人間が経験や勘に頼っていた部分」と、それに必要な教師データの取得方法を含めた論述を課すことにより、情報技術を活用して実社会の問題解決に取り組む姿勢を評価します。</p> <p>2つの設問に通じるのは、データサイエンスやAIを活用して社会環境工学分野の課題を解決しようとする姿勢が育まれているのかを問う視点です。北海道という地域の特性を考慮した上で実現可能な提案ができるかも重要です。例えば、凍結路面の危険性を判断するAIの開発など、市民生活の安全性に直結するような提案が望まれます。</p>
総評	<p>設問1、2ともに記述の量は十分でした。設問2では、凍結路面の危険性を的確に指摘することができていましたが、「これまで人間が経験や勘に頼っていた部分」についてはやや理解不足が見られました。また、課題の解決に直結するような教師データが挙げられていれば、より高得点につながったと言えます。</p>